

住宅とフローリング

Vol. 17

P

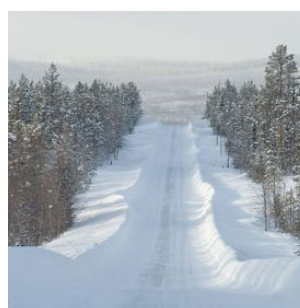
第 17 号のポイント

1. 無垢材の特徴は、なんといっても 100%天然素材！
2. 無垢材の良し悪しは、素材と含水率で決まる！
3. 含水率は北欧家具レベルの 8%にまで落とされている。

?

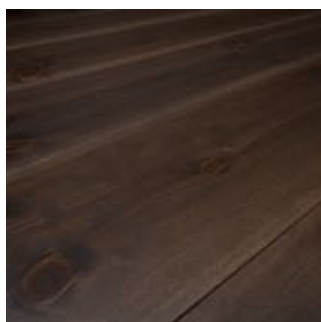
筆者プロフィール

金井田晃央（かないだあきお）
 1975 年 群馬県生まれ
 日本大学大学院（建築・構造）を卒業後、スウェーデンへ渡る。
 スウェーデンで住宅・建材の輸出マネージャーを 10 年間務める。
 河本工業の次世代型住宅である“Komoto Hus”（河本ヒュース）の開発メンバーに携わる一人。
 スウェーデン住宅・建材・家具等の輸入手配を主に担当している。
 筆者ホームページ：
<http://mala-gruppen.com>



厳しい寒さの中で育つパイン

様々な塗装や表面仕上げ



木目が緻密で良質なスウェーデン北部産パインのフローリング

Hejsan！今回はスウェーデンのフローリングについてお話します。スウェーデンで使われているフローリングは、ほとんどが木製です。木製フローリングは大きく分けて二つあって、一つは無垢材、もう一つは積層材です。無垢材の特徴は、なんといっても 100%天然素材、積層材の特徴は、構造上狂いが少なく、多様な樹種を選ぶことです。

スウェーデンの無垢材の代表格は、パイン（赤松）です。パインフローリングは、素足で歩くと気持ちよく、部屋中に木の香りが充満します。柔らかいため傷が付きやすいのが難点ですが、無垢材であれば、20mm から 30mm と分厚いため、表面を削り取れば、新しい表面をよみがえらす事もできるのです！

無垢材の良し悪しは、素材と含水率で決まります。スウェーデン北部産のパインは、木目が緻密で最も良質とされる素材です。このパインを、機械乾燥させることで、材の水分を除去します。どのくらい除去するかというと、含水率 8%までです。含水率 8%というと、北欧では家具に使えるレベルです。つまり、それだけ狂いが少なく、精度がよく出るといことです。実際に、日本でもスウェーデン北部産のパインを初めて見た方は、本当にパインなのか？と疑う程なのです…。

パインフローリングは、その素材感・質感を活かし、オイル仕上げで使われる場合が多いですが、最近は耐久性の良いハードワックスやラッカー仕上げによって、ホワイトやダークブラウン色で着色もします。また、表面の柔らかい部分を取り除き、まるで何十年も使い続けたようなゴツゴツした表面をもったアンティーク仕上げも人気です。次回は、積層材のフローリングをご紹介します。お楽しみに！

文責 金井田晃央（筆者へのお問い合わせ先：info@mala-gruppen.com）

Innovatio：イノベーションとは、これまでのもの、仕組みなどに対して、全く新しい考え方や技術を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すこと。